

コガネバナ



紫色の唇形花



十字対生で披針形の葉



四角い茎

写真: 東京理科大学植物園

中国に自生する多年草。草木染の染料として知られている。日本では、徳川吉宗のころ、朝鮮から種子が導入され、小石川養生所(現在の東京大学小石川植物園)で最初に栽培されたとされている。茎は四角。葉は十字対生で披針形。夏に苞葉のある花穂を頂生し、紫色の唇形花が2個ずつ一方向に向いて対生。根は黄色で、円錐形で木質。タツナミソウ属 *Scutellaria* は、ラテン語の *Scutella* 「小さな盾、小さな皿」のことで、萼の部分を例えている。和名のタツナミソウとは花の形が波立つようになっていることに由来する。また、種小名の *baicalensis* は、コガネバナの原産地であるバイカル地方に由来する。コガネバナ「黄金花」の名とは裏腹に花は青色で、黄金であるのは主根の内部の色である。

生薬: オウゴン

薬用部位: 周皮を除いた根

成分: フラボノイド(baicalin, baicalein, wogonin)

用途: 健胃薬。降圧、利尿、止血作用のある消炎解熱薬。

処方: 黄芩湯、三黄瀉心湯、黄連解毒湯、大柴胡湯、柴苓湯、防風通聖散、補中益気湯、乙字湯

薬効: エタノールエキス・・・胆汁分泌作用、緩下作用、粥状動脈

硬化防止作用、抗アレルギー作用

エーテルエキス・・・グラム陽性菌に対する抗菌作用

baicalin, baicalein・・・解毒作用、毛細血管透過性抑制作用、抗アセチルコリン作用

baicalin・・・ヒトの肝がん及び肺がん細胞に対する細胞障害毒性

[参考文献]

最新薬用植物学 有澤宗久 廣川書店

生薬学 第8版 北川勲 廣川書店

タケダ健康サイト <https://takeda-kenko.jp/kenkolife/encyclopedia/illustrated/ougon.html>

生薬単 原島広至 株式会社エヌ・ティ・エス